

かかりつけ医とインフル予防接種

洲本市 たかたクリニック 高田 裕 (医師)

1. はじめに

かかりつけ医にとって、感染症予防、とりわけインフルエンザ（以後インフル）予防対策はもっとも重要である。2009年の報告にひきつづき、当クリニックで実施しているインフル予防接種の実態について調査したので報告する。

2. インフル罹患者数

インフル罹患者は毎年100名以上みられる。インフルの流行年度は10月より翌年8月までとした。新型が流行した2010年度を除き、大流行の年度はB型が多くみられる。

3. インフル予防接種の方法

診察時間内に実施した。予防接種は13才以上は1回接種とし、13才未満は2回接種とした。接種者数は高齢者以外は減少傾向にある。

4. インフル罹患者とインフル予防接種

インフル予防接種の効果について、毎年の傾向をみることによりその効果を推定してみた。全体的には子どものほうが大人に比べて予防接種効果が少ないように思える。年度によりその効果にばらつきがみられる。B型流行時には効果が少ないように感じた。

5. 子どもの予防接種の回数

13才未満の2回接種については、1回と2回について予防効果に差はみられなかった。

6. 予防接種とインフル重症度

インフル罹患者に「しんどいかどうか」の問診で主観的に重症度を聞いたところ、接種者に軽症者が多い傾向がみられた。

7. 考察

*季節により効果に差がある。

*B型よりA型に効果がみられる。

*子どもより大人に効果がみられる。

*子どもの接種回数は1回と2回に差が見られなかった。

*重症化予防に効果がある。

*かかりつけ医が積極的にインフル予防接種を実施することは、重症化予防、流行の抑制に寄与できると思われた。